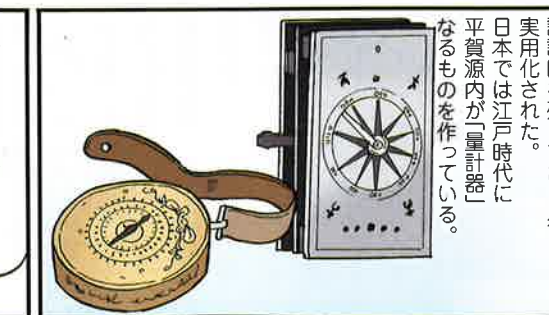


万歩計



万歩計



現在では、日本のみならず海外でも販売している。品質の良さと信頼を得て、堅調に売上げを伸ばしているのだという。

歩数を計測するのに欠かすことのできない「万歩計」。実は「万歩計」という商品名は、山佐時計器(株)の商標であることはご存じだろうか。日本で初めて実用化された歩数計「万歩計」はいつに生まれたのか？ その歴史に迫る。

昭和十七年(一九四二)東京都豊島区——加藤二郎(29)は航空計器部品を製造する「山佐航空計器製作所」を創業した。

戦後は目黒区に移り業務用時計の部品などを作る「山佐時計製作所(現・山佐時計器)」になった。

来年は東京五輪もあって、スポーツに関心が向いています。私たちが一緒に健康のために歩きませんか？

加藤さん自分がどのくらい歩いたかが簡単にわかるような機器はできませんか？

かのレオナルド・ダ・ヴィンチが設計図を残しており、後に実用化された。日本では江戸時代に平賀源内が「量計器」なるものを作っている。

故郷福島の実家の屋号が「山方屋」だから先祖の山方屋佐蔵を略して「山佐」にしよう

昭和三十八年(一九六三)とある会合で

なるほど、日本には歩数を測る機器がないのか

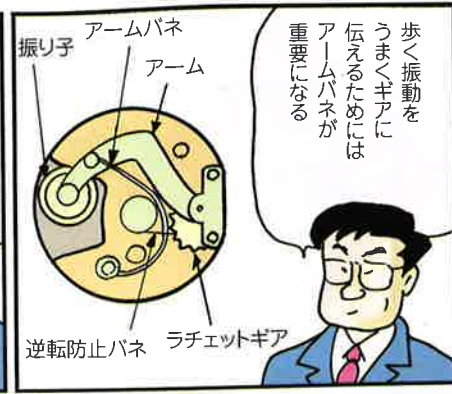
わが社の時計技術を応用すれば小型の計測器ができた

私は医師の大矢殿と言います ※のちの日本万歩クラブ創始者

一日一万歩か けっこう歩くね

「歩数計」ですか？

わが社の時計技術を応用すれば小型の計測器ができた



なにこの人たち？

社員全員が試作の万歩メーターをつけて、会社近辺を歩き回った。

微妙な調整が難しいから実際に身につけて実測しなくては

歩数カウンタと万歩メーターが連動するかどうか実測しよう

歩く振動をうまくギヤに伝えるためにはアームパネが重要になる

もっと小型化し量産して価格を下げる

当時、大卒の初任給が二〜三万円の時代、「万歩メーター」は二千二百円もする高級品だった。しかしウォーキングブームもあって人気となり、スポーツ大会の賞品などとして使われた。

昭和四十年（一九六五）数々の試作品を作り、ついに「万歩メーター」が完成する。

当時、歩数計を作ったのはドイツの企業だけだった。

「万歩計」はベルトに水平に固定しないと正しく計測できないが、加速度センサーを使えば、どんな位置でも計測できる

これは見やすい

昭和六十二年（一九八七）「デジタル式万歩計」になるとさらに人気が増した。

昭和五十九年（一九八四）「万歩メーター」は「万歩計」として商標登録され、他社の追従を許さぬ商品として人気となる。

この頃、メタボ健診が注目され始め、企業や官庁でも積極的に「万歩計」を導入することになる。

バッグに入られるからいいわ

ベルトにつけなくていい

小型化・軽量化され、可愛いデザインも増えたことで、若い女性にも人気となる。

平成十八年（二〇〇六）「3D加速度センサー式ポケット万歩パワーウォーカー」発売。

いまは歩行測定だけではなく、消費カロリーもわかる「活動計」もあるのよ

犬用の「わん歩計」もあるんだわん！

簡単に便利だ

平成二十五年（二〇一三）電波時計内蔵の腕時計型の「万歩計」が発売になると、煩わしい設定がいらなくなり、年配者にも受け入れられる。

カッコいい

同じ頃、腕時計型の「万歩計」を発売すると、大ヒットする。